

西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備事業

有識者座談会

－事務局プレゼン概要－

事業見直しの経緯

令和元年 10 月

西宮ストークス移転表明 新中央体育館の整備内容見直し  
→「みる」スポーツに対応するアリーナ整備において、“西宮ストークス”という事実上の整備方針の柱を失う。

令和 2 年 6 月

コロナ禍のため市の主な事業を停止 入札を中止  
→私たちの生活様式やスポーツを取巻く環境が大きく変化。

コロナ禍の影響

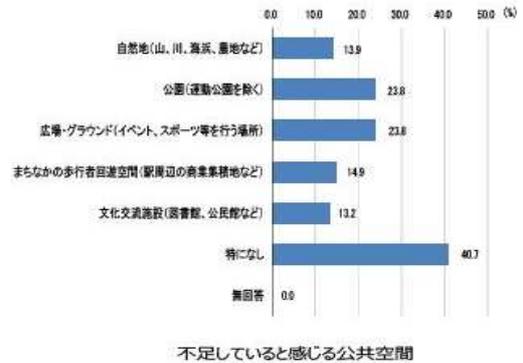
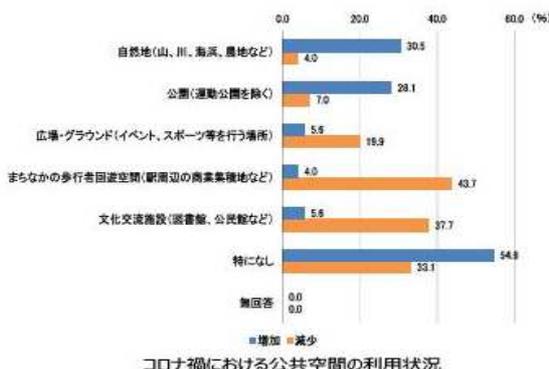
- 運動不足による健康度、体力の低下
- 健康、スポーツへの意識の高まり
- 1人でスポーツ施設を利用しなくても気軽にできるエクササイズ的重要性がアップ
- 仲間と行うスポーツの機会の減少
- スポーツを控えていた人のスポーツ離れ
- テレワーク等の導入による余暇時間の増加
- 家でもできるエクササイズ・スポーツ動画の普及

参照

新型コロナウイルス感染症の流行による国民のスポーツへの参画状況や意識の変化、健康状態等に関する調査研究 令和 2 年度/スポーツ庁

新型コロナウイルスによる運動・スポーツへの影響に関する全国調査 2021 年 2 月調査・最終/笹川スポーツ財団

- 求められる公共空間の変化



参照 西宮市都市計画マスタープラン骨子案 令和 3 年度市政モニター調査/西宮市

- ・ 山、川、海浜、農地などの自然地、公園の利用が増加
- ・ 公園、イベントやスポーツを行う広場・グラウンドが不足
- アウトドアで過ごす意識が高まっている傾向。

西宮市の魅力をつくるもの(市民からの評価)

- 日経 BP「住みよい街」ランキング

西宮に住んでいる、住んでいた人対象に 8 つの分野を評価

近畿エリア 1 位

総合順位 15 位

総合スコア 64.5

最も評価が高かった分野：街の活力 68.8

最も評価が低かった分野：快適な暮らし 53.5

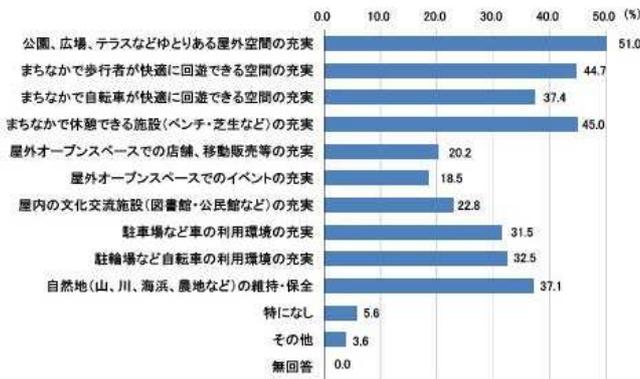
本事業に直接関係する主たる項目

- ・ 自然環境が豊か 239 位 43.9
- ・ 公園が多い 56 位 58.4
- ・ 住民が利用できる運動・スポーツ施設が充実している 92 位 56.7
- ・ 自治体からの情報発信が充実している 111 位 54.3

参照 日経 BP「住みよい街」ランキング 2022

→自然を楽しむ生活スタイルを提示、発信出来ておらず、豊かな自然資源を活かし切れていないことが推測される。

○求められている公共空間

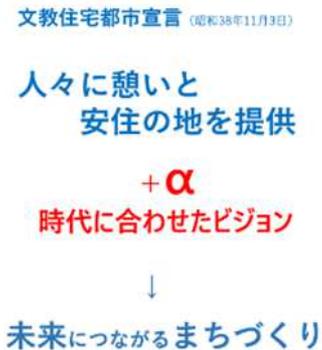


今後の公共空間の整備・活用において重要なもの

参照 西宮市都市計画マスタープラン骨子案 令和3年度市政モニター調査/西宮市

→「公園、広場、テラスなどゆとりある屋外空間の充実」、  
「まちなかで休憩できる施設」、「まちなかで歩行者が快適に回遊できる空間の充実」等、快適な外部空間づくりが求められている。

市が目指すところ



→まちづくりのベースとなるのは「人々に憩いと安住の地を提供する」ことを宣言した 文教住宅都市宣言であり、その理念を引き継ぎつつ、時代に合わせた+αのビジョンを示し、未来につながるまちづくりを目指している。

本事業でも+αの部分はどうするのが大きな課題

○西宮市都市計画マスタープラン骨子案

※現在検討中のものであり、今後変更となる場合があります。

主要課題1

持続可能な都市の構築

主要課題2

人口の減少・高齢化等の人口構造の変化への対応

主要課題3

地域の実態や社会構造の変化への対応

主要課題4

激甚化する災害への対応

主要課題5

都市の魅力の更なる向上

主要課題6

地域主体・協働の都市づくりの推進

→本事業では特に主要課題4、5、6について取り組んでいる。

西宮市のみどりの現状 (別添1 参照)

本市は、六甲山系を隔てて、北部地域と南部地域に分けられる。西宮中央運動公園の北側には、社家郷山や甲山といった六甲山系がひろがる。西側には夙川が、東側には武庫川があり、南北につらなる緑地軸となっている。さらに、南側には御前浜や甲子園浜といった、海浜公園が整備されている。

西宮中央運動公園は南部地域の中心にあり、市民にとって重要な「市民の活動拠点」となることを目指している。

○西宮市の公園とみどりの特徴

・山のみどり

社家郷山や甲山周辺に豊かな森が広がり、みどりの中核である。また、仁川緑地や、北山植物園もあり、市民のレクリエーションの場でもある。

・川のみどり

夙川をはじめ、武庫川など、緑地として整備された河川は、市民の憩いの場である。

・海のみどり

甲子園浜や御前浜などの貴重な自然海浜では、清掃活動や海浜植物の保全活動など、市民活動が積極的に行われている。



仁川緑地と杜家郷山周辺



夙川河川敷緑地



甲子園浜海浜公園



東三公園

・まちなかのみどり

まちなかのみどりである住区基幹公園や街路樹は、憩い、子供の遊び、健康づくり、災害時の避難地など、市民の「潤いと安らぎの暮らし」を支えている。

→西宮中央運動公園は、この住区基幹公園に分類されるので、「まちなかのみどり」としての役割を担う。

○西宮中央運動公園の現状

- ・アクセス条件については、JR西宮駅・阪急西宮北口駅からそれぞれ約1kmの距離に位置している。
- ・都市公園法上の分類としては、まちなかの公園である住区基幹公園の中で一番大きい「地区公園」である。
- ・敷地面積は、約6haほど。
- ・既存施設としては、中央体育館、武道場、陸上競技場、多目的グラウンド、テニスコート、西宮スポーツセンター、遊具広場からなる。
- ・地域防災拠点として位置づけられており、市内唯一の開票

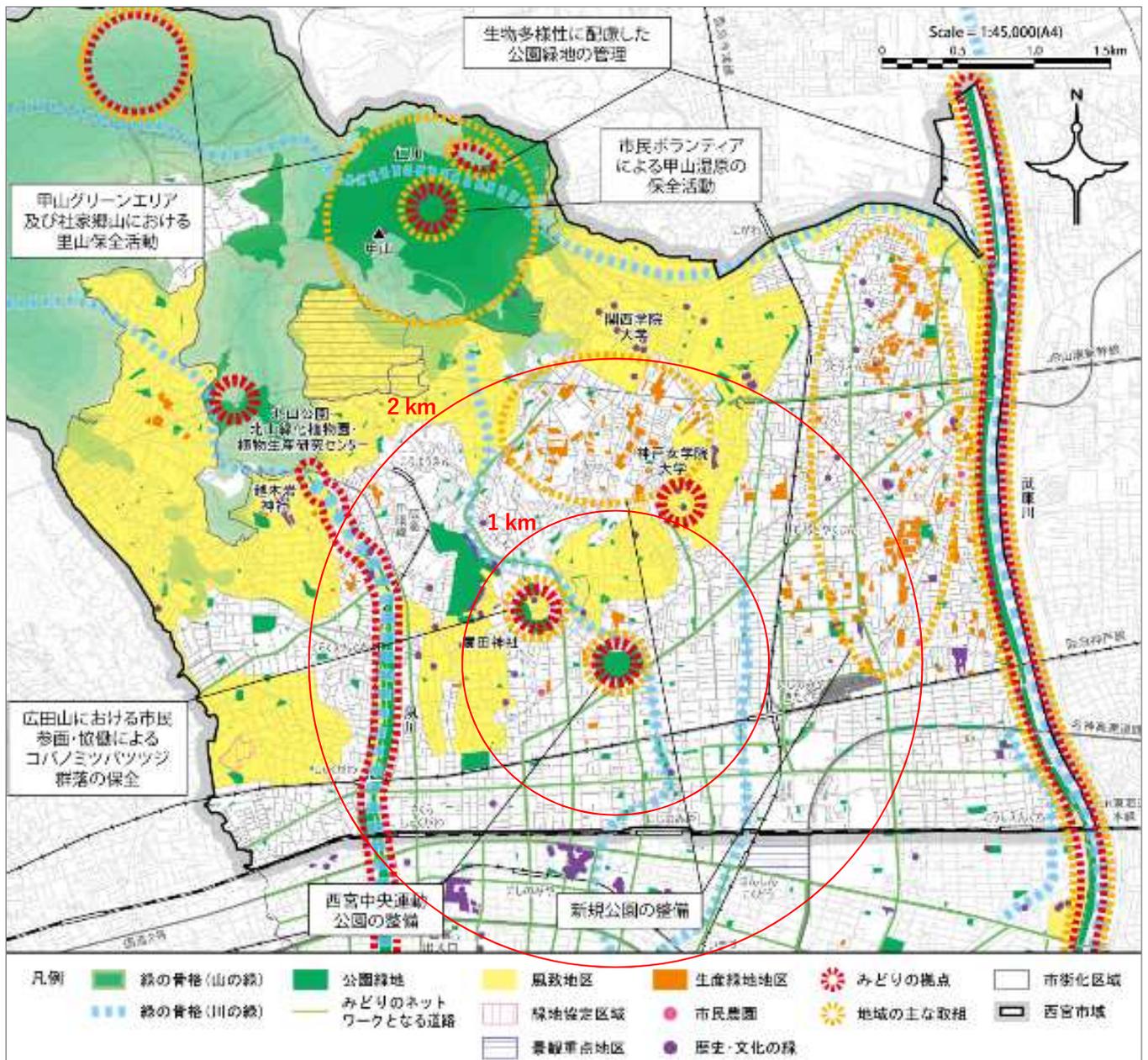
所としても利用されている。

○整備の経緯

竣工	施設名	位置付け	備考
S24	多目的グラウンド(旧野球場)	西宮市民運動場	
S32	陸上競技場	//	
S38	テニスコート	//	
S40	中央体育館	//	現都市公園区域外
S44	遊具広場等公園施設	都市公園告示	既存不適格

西宮中央運動公園は、昭和24年の多目的グラウンドから順次整備が始まり、当初は「西宮市民運動場」という位置付けであった。その後、昭和44年に遊具広場が整備され、都市公園として開設されている。西宮中央運動公園は、もともと公園ではなかったところを後付けで公園として開設した経緯がある。

→もともと公園でなかったところを公園としたために、施設が多くを占めており、敷地内は緑が少ない状況である。



○西宮中央運動公園の課題

- ①周辺に公園が少ない。
- ②公園内に緑が少ない。
- ③全体老朽化。
- ④もともと公園でない「西宮市民運動場」を、後から公園としたために、公園空間(屋外空間)にゆとりがない。
- ⑤拠点として活動する、地域住民団体(清掃活動、花壇活動等)がない。地域コミュニティ形成の場として活用されていない。

⑥公園でのイベント利用(夏祭り、ラジオ体操、遠足等)がない。人と人との交流の場は、遊具広場に留まっている。

○西宮中央運動公園のポテンシャル

西宮中央運動公園は、「山のみどり」・「川のみどり」に囲まれており、さらに「まちなか」の中心に位置する。

この公園を再整備することは、公園とみどりにとっての重要なネットワーク拠点を整備するということであり、周辺の豊かなみどり環境へと飛び出すきっかけを生み出す場であると考えている。

○参考としたい近年の公園整備の潮流

近年の公園整備・再整備のトレンドとして、人と人との交流という「ソフト面の活動」を念頭に置いた、ゆとりあるオープンスペースが整備されている。これらの事例は、コロナ禍以前より計画されていることも注目の一つである。

神戸の東遊園地、豊島区の南池袋公園では「市民が主役となるにぎわいづくり」といったソフト面を意識し、芝生広場を中心とした公園づくりが進められている。

高槻市の安満遺跡公園などでは、各種イベント利用を想定した広場のハード整備をしている。

→これらの公園における、様々な、人と人との交流を生み出す「しかけ」も参考にしながら、本事業を実施したいと考えている。

### 西宮市のスポーツの現状

○西宮市スポーツ推進計画

・「する」「みる」「ささえる」を通じたスポーツ参画人口の拡大

・スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現

・信頼性の高いスポーツ運営体制の推進

以上の3つの基本方針を掲げて、各スポーツ団体と連携し、スポーツ人口を増やして、幸福で豊かな社会をつくるべく、スポーツ行政を進めている。

○西宮市のスポーツ・レクリエーション拠点

西宮中央運動公園は本市におけるスポーツの中核施設となっているが、その他、浜甲子園運動公園と、阪神甲子園球場周辺も拠点として設定している。

・浜甲子園運動公園

浜甲子園運動公園は、浜甲子園体育館をはじめとして、野球場3面、多目的グラウンド2面、テニスコート13面があり、市南部地域のスポーツ活動の拠点となっている。

臨海地域にあり、駐車場も広いため、市内はもとより、市外の方の利用が多い特徴がある。

・阪神甲子園球場周辺

阪神甲子園球場周辺は、「スポーツを核とした甲子園エリア活性化推進協議会」を立ち上げており、スポーツをテーマとした甲子園エリアの活性化に向けて、官民連携のもと様々な取り組みを行っている。

阪神甲子園球場の存在が大きく、「みる」スポーツの役割を担っている。

・西宮中央運動公園

西宮中央運動公園は、西宮中央体育館をはじめとして、武道場、陸上競技場、テニスコート、多目的グラウンドなどがあり、本市におけるスポーツの中核施設となっている。

また、中央体育館はプロバスケットボールチーム「西宮ストークス」のホームアリーナとして使用されている。

○西宮中央体育館・陸上競技場の課題

・中央体育館の課題は、体育室の稼働率が高く、利用予約がしづらい。

・陸上競技場の課題は、トラック・インフィールドともに土質であること。

・地域防災拠点として、防災機能の強化を図る必要があること。

・ユニバーサルデザインに対応できていないこと。(2階への動線は階段のみ)

・サブアリーナがないために、大会時には一般利用に制限がかかること。

→再整備では中央体育館のメインアリーナを拡張し、サブアリーナを設置することで、「する」スポーツの面積を現在の約2倍に広げる計画である。

陸上競技場はトラックを全天候舗装に、インフィールドは人工芝にして、より高いレベルのスポーツ利用ができるよう計画している。また、現在は夜間照明がないが、再整備で照明設備を設置し、夜間利用にも対応した施設とする。

更に、ユニバーサルデザインに配慮し、地域防災拠点としての防災機能の強化を図る。

○西宮中央運動公園（スポーツ施設）のポテンシャル

- ・まちなかにあるスポーツ施設として、近隣の方が日常的に気軽にスポーツを楽しめる。
- ・中央体育館や陸上競技場の再整備で、より多くの人々がスポーツに挑戦できる。
- ・子どもから高齢者の方はもちろん、市内の大学生がもっと活用できる施設になり得る。

### 本事業での挑戦（事務局が考える整備のあり方）

本事業を再開するにあたり、単なる従来の公園やスポーツ施設の更新・機能強化にとどまらず、多様化するライフスタイルに応えるべく、公園内にスポーツ施設がある立地を活かし公園と各施設を互いに共鳴させ、さまざまな遊び・楽しみ・コミュニケーションを誘発する公園を目指すこと、結果として「住みたい街」としてのブランドイメージを維持・向上させることを目標と定めた。

特に重要と考える点については下記の通り整理した。

目指す風景・全体像

#### ① 公園全体のランドスケープに配慮した、だれもが利用しやすく環境にやさしい公園

事業の特性を活かしたソフト整備の考え方

#### ② スポーツと公園の相乗効果によるにぎわいとコミュニティを創出するしかけ

整備の大きなウェイトをしめるスポーツの目指すところ

#### ③ 市民大会をはじめとした「する」スポーツが中心のスポーツ施設

上記を達成するためのハード整備の考え方

#### ④ 多様な活動やイベントを受け入れる公園空間と一体となったスポーツ施設の整備

20年間という期間の運営の考え方

#### ⑤ 変化するライフスタイルにふさわしい魅力的なサービス提供及び施設運営

事業の進め方

#### ●ファンやサポーターを増やすための事業プロセス

具体的な事例を示しながらイメージを共有する。

#### ① 公園全体のランドスケープに配慮した、だれもが利用しやすく環境にやさしい公園

##### 事例 南池袋公園／東京都 豊島区

- ・街中にあるだれもが気軽に利用できて、居心地のいいリビングのような公園
- ・カフェ飲食が入る建物の前に多目的に使えるデッキスペース、広々とした芝生広場が広がっていて一体的にデザインされている。
- ・広い芝生の上で人々が自由に集い、思い思いの時間を過ごす伸びやかな風景
- ・ベンチを兼ねた花壇の擁壁が園路と一体にしつらえられていて、その園路を進むといつの間にかわくわくするような滑り台の上に導かれる。
- ・こけても痛くないようにウッドチップが敷かれていて、保護者が見守るためのベンチが木陰と共にある
- ・色んな狙いが美しいランドスケープでまとめられている。

##### 市が目指すところ

- ・この人々が楽しそうにすごしている豊かな風景こそが、まちのイメージをつくる'にぎわい'だと思う。華美にリニューアルする事業ではなく、こんな風景を作りたい。

- ・求められる機能を配置して、出来合いの遊具やベンチを置いて、余白に植栽を植えて出来上がりではなく、必要なたくさんの機能を興味やアクティビティを誘発するストーリーのある美しいランドスケープでまとめて欲しい。
- ・ランドスケープのデザインが非常に重要。

#### 事例 シェルターインクルーシブプレイス コパル／山形市

- ・子どもたちの多様な遊びを触発したいという考えから、既存の遊具を置かずに、起伏のある地形のような建物となっている。
- ・子どもたちが、自分の能力に合わせて、こんなことをしてみたいと遊びを作り出すような仕掛けがいたるところに設けられている。
- ・外部の地形とも呼応して建物もランドスケープの一部のような設え。

#### 市が目指すところ

- ・だれもが利用しやすい、つまりインクルーシブの考え方が、遊具を設置するならインクルーシブ遊具も一つの手段としては良いが、決して設置するのみが目的ではない。
- ・我々もインクルーシブの考えについては理解が十分ではないので、身障者の活動団体や保護者と意見交換を実施している。また業務内でも意見交換を行う場を設けることとしている。市民や我々と協働しながら一緒に考えて欲しい。

### ② スポーツと公園の相乗効果によるにぎわいとコミュニティを創出するしかけ

#### 事例 PARKERS TOKYO／東京都 新宿中央公園

- ・スタジオヨガに加えて、パークヨガ、ノルディックウォーキング、ランニングなどの、年齢性別に関係なく、日常的に行いやすいアウトドアフィットネスプログラムを実施。
- ・スポーツやアウトドアへのハードルを下げ、広大に広がる大自然、スポーツの世界への入り口となることを狙う。

#### 市が目指すところ

- ・今回の整備は街中で運動施設と公園が同居しているので、「日常的に健康で楽しさが溢れるにぎわい」に焦点を当てたい。
- ・こういったアウトドアのプログラムを継続して行うことで、新しい顔見知りが出来たろうし、たまたま公園に遊びに来た人が興味を持つかもしれない。そうやって新しいコミュニティも出来ると思う。

#### 事例 ツリーイング／2022年西宮市民祭りにて

- ・子どもも、大人も、車いすの方も楽しめるプログラム。
- ・普段味わえないような、高い場所のドキドキ、風の流れや葉っぱのにおい。この経験で楽しさに気づいて、本格的な体験を求めて甲山や六甲山に行くかもしれない。

#### 市が目指すところ

- ・本施設で出来ることには限りがあるが、気づきやきっかけの場となって欲しい。
- ・「遊び・楽しみ・コミュニケーションを誘発する」そんな仕掛けをたくさんしたい。

### ③ 市民大会をはじめとした「する」スポーツが中心のスポーツ施設

#### 事例 アスレチック・リエゾン・西宮

- ・西宮にゆかりのあるトップアスリート達が本市と協働しながら取り組んでいる事業である。
- ・年齢に関係なく、市内で活動している選手、指導者、チームに対して指導や講演会を行い、アスリートのプレーを身近に感じ、触れる機会をつくることで、スポーツの楽しさを伝えている。

#### 市が目指すところ

- ・プロスポーツの試合を観るようなハレの場の高揚感はもちろん大事で必要だが、一年のうち、圧倒的に多い日常により焦点を当てた整備を行いたい。
- ・誰もがスポーツを「する」喜びを日常的に感じられる施設となるよう機能強化。(既存の施設に比べて、体育館面積と

しは倍程度、トラックは全天候対応、インフィールドは照明を備えた人工芝仕様とする等。)

- ・「アスレチック・リエゾン・西宮」のような取り組みを本事業ではより推進していきたい。

#### 事例 西宮市の学生アスリート

- ・文教学習都市西宮市にはたくさんの大学があるのも強みであり、全国レベルの学生アスリートもたくさんいる。

#### 市が目指すところ

- ・練習や練習試合、定期戦などを行う拠点の一つとしてぜひ日常利用して欲しい。
- ・街中にある公園だからこそ、たまたま公園に遊びに行ったら、全国レベルのお兄さんやお姉さん達のカッコいいプレーが観られる。興行試合のような特別な日も必要だが、こういった日常的にスポーツに興味をもつきっかけをより大事にしたい。
- ・20年間という業務期間で、この公園で遊ぶことをきっかけにスポーツに興味を持ち、ここで練習して、トップアスリートになるようなストーリーだって描ける。

#### ④ 多様な活動やイベントを受け入れる公園空間と一体となったスポーツ施設の整備

##### 事例 トゥッソル・バジル陸上競技場／スペイン オロット

- ・「競争するのではなく、ここを走りながら、自然に触れて幸せを感じられるように」というはっきりしたテーマのもと森をそのまま残して、木立の周りを走ることが出来る。
- ・そのままの地形を利用した観客席など、この場でしか成立しないものを、土木・造園・建築の垣根無くひとつの大きなランドスケープとして計画。

#### 市が目指すところ

- ・既存の公園にスポーツ施設を整備するのではなく、スポーツ施設の外構を整備するのでもない。(トゥッソル・バジル陸上競技場は、極端な例ではあるが) スポーツ施設と公

園を一体で整備するものであることに注意して計画する必要がある。

##### 事例 松本平広域公園陸上競技場整備事業／長野県

- ・「公園とまちに開かれた陸上競技場」がテーマの一つとして計画されており、コンコースを周辺外構と連続させ、公園と一体となっている。
- ・トラックのメインストレートがそのままエントランスと繋がり、街に繋がっていく。移動通路からはグラウンドが見渡せるなどの工夫がなされている。
- ・大会時は管理区画で競技場を公園の一部ごと囲い込むことで、競技場を公園と一体に利用できるよう工夫。

#### 市が目指すところ

- ・管理の工夫については研究が必要だが、コンセプトに強く共感。
- ・今回の敷地は、実は必要機能に対してそれほどゆとりはない。市民祭り、フェス、マルシェのような大きなイベントがありえると思うが、競技場、体育館、公園が一体的に利用でき、利用の幅が広がるような計画としたい。

##### 事例 秋田ノーザンゲートスクエア／秋田県

- ・「地域に開く」をコンセプトに掲げ、街の日常に溶け込むことを目指している
- ・選手たちが練習している様子が街から誰でも見ることが出来、バスケ、スポーツに興味を持ってもらえるようにという願いが込められている。

#### 市が目指すところ

- ・一般的な体育館や競技場のような運動施設はとても閉鎖的で、中で何をしているのかが分かりにくい。いかにして公園、さらには街に対して開くのがポイントと考える。

#### ⑤ 変化するライフスタイルにふさわしい魅力的なサービス提供及び施設運営

## 事例 甲子園スタイル／スポーツを核とした甲子園エリア 活性化推進協議会

- ・民間、大学、西宮市が一緒に取り組んでいる。
- ・点で完結するのではなく、スポーツをテーマにして、ライフスタイルやエリアの魅力・楽しさを発信している。
- ・その結果、自分たちの施設の魅力と価値もアップする。
- ・単発では無く、戦略を持って継続して行っており、よくデザインされた非常にいい取り組み。

### 市が目指すところ

- ・打ち上げ花火のようなイベントの乱発ではなく、ビジョン、戦略を持って、施設さらにはエリア、西宮の魅力を上げるような取り組みを市と共に継続して実施して欲しい。
- ・現状、商業・興業の性格が少し薄いエリアで、事業性は難しいかもしれないが、ポテンシャルがあるエリアなので、市としても積極的に仕掛けていきたい。
- ・プレイリーダー、防災キャンプ、マルシェ、パークシネマ、パークウェディング、色んなことが考えられるが、市民の生活に彩りを与えるようなサービスを常に市と一緒に模索し続けて欲しい。
- ・20年という業務期間、コロナ禍の様に何が起ころか分からないので、時代に合わせて常にアップデートしながら運営を行って欲しい。
- ・行政は前例のないことを進めるのが得意ではないが、あれも、これも禁止するのではなくて、市も覚悟を持って新しいことにチャレンジする必要がある。
- ・西宮市のパートナーとして一緒に市民サービスの向上という目線で取り組んで欲しい。

### ●ファンやサポーターを増やすための事業プロセス

## 事例 みんなでつくる千里中央公園／豊中市 千里中央公園 活性化事業

みんなでつくる公園をテーマに、非常に戦略的にワークショップ等を実施。

### ○講座編

- ・公園を考える際のポイントや事業者が考えていることを発信し市民や関係者の理解を深める。
- ・同時に必要とされているニーズ等を探り、提案内容にフィードバック。
- ・著名人を講師に呼び、事業の話題性も同時に獲得。

### ○企画・実践編

- ・公園で楽しむための企画立案を市民参加で行うことで、実際に公園で活動してくれる人や団体を発掘し、活動コミュニティをこの時点から準備している。
- ・本オープンへ向けて具体的に準備・PR。

### ○オープン前お披露目会

- ・企画を実践してみて本オープンに向けてのフィードバックを得る。

### ○オープン

- ・この時点ですでに公園の事業内容をよく理解してくれている市民や活動する団体が一定数いる状況。

### 市が目指すところ

- ・提案事業が大きく失敗しないようにマーケティングの要素もあるが、公園に来るだけだった人たちが、「ヨガをやってみたい」「マルシェに出店したい」という思いをふくらませ、従来の「利用者」の域を超えて、次第に公園空間のづくり手として育っていく風景を市と一緒に描いて欲しい。
- ・それを逆回ししながらプロジェクトを組み立てていくのが理想であり、もちろん運営中も続けて欲しい。
- ・期間が長いので、既存の体育館や他の施設も使いながらプレイベントを行うことも市としては想定しているので、積極的に提案して欲しい。